

今後の持続可能な社会形成のための技術のあり方を包括的に提案する

## 〈持続可能な開発のための適正な技術選択に関する包括的フレームワーク〉

の発信開始 関連 URL: <http://www.apex-ngo.org/comprehensiveframework.html>

### 概要

今日、私たちは、気候変動ということだけから見ても、毎年気候の変化が実感としてはっきり感じられるような時代を生きています。これは驚くべきことで、通常は千年を単位とするような変化が、今まさに一年単位でおきてしまっているのではないのでしょうか。問題は気候変動ばかりでなく、貧困と格差、地域・国家レベルの紛争、核兵器の脅威、テロリズム、膨大な難民・避難民の発生、民主主義の劣化等の問題が世界を覆っています。このままでは、数十年先あるいは十年先にも、私たちは普通の生活を続けていられるのかどうかすら、わかりません。

2015年に、SDGs(持続可能な開発目標)が国連持続可能な開発サミットで採択され、多方面の人々・組織が共有する目標となっていることは、私たちの将来に希望を与えるものですが、それでは、その達成のために、どのような社会のあり方、経済のあり方、それらを支える技術のあり方が必要となるのかは、あまり明らかではありません。問題を技術の面から考えると、これまでの、効率・規模・速度の拡大・増大と経済成長・利潤を至上の価値とする近代科学技術体系の単純な延長上には、持続可能な未来を描くことはむずかしいのではないのでしょうか。それに代わる技術体系が作りだされていかなければなりません。その手がかりとなるものを探していくと、60年代中盤～80年代中盤に隆盛した適正技術に行きあたります。適正技術は、持続可能な開発のための技術としての要素をふんだんに含んでいますが、80年代中盤以降は勢いを失います。そこには、適正技術の概念があいまいで、多くの方々が納得・賛同し、コミットしていけるようなフレームワークが欠けていたことが本質的な問題としてあったと考えられ、それを補って、適正技術を今日的な意義をもったものとしてよみがえらせていくことは、今後の持続可能な社会形成のための技術体系にいたる近道ではないかと思われました。そのような考えから包括的フレームワークづくりが始まりましたが、結果的には、かつての適正技術の枠組みをはみだして、先進国/開発途上国を問わず、それに沿った技術を開発・選択・実行してい

ば、必然的に SDGs が達成されるような、今後の技術のあり方の基本原則を示すものとなっています。このフレームワークは、2019年12月7日・8日に開催された国際会議で議論され、インドネシア・フィリピン・日本の計6団体から賛同を得て、発信が開始されています。

### 持続可能な開発のための適正な技術選択に関する包括的フレームワーク

このフレームワークは今日の世界が直面している問題を、「貧困と格差」、「環境と資源」、「人間・労働疎外」の三つの観点からとらえ、それらが相互に関連しながら、今日の世界を持続不可能にしていると分析しています。そして、それらの問題が生じる根柢的要因を、近代産業社会～近代文明のあり方そのものに見出しつつ、この三つの問題群のそれぞれを解決・緩和するための、今後の技術のあり方を10の原則にまとめています。

<b>1. 貧困と格差の問題の解決・緩和の観点から</b>
P-1. それぞれの地域の条件に適合的で、貧困を直接解消する
P-2. 仕事の機会を適正に創出する
<b>2. 環境と資源の問題の解決・緩和の観点から</b>
E-1. 限りあるものは、限りあるものとして扱う
E-1.a 再生不可能な資源を極力用いない。特に化石燃料資源の使用から脱する
E-1.b 環境を汚染する廃棄物・排ガス・排水を適正な処理なく放出しない。温室効果ガスは排出しない。
E-2. 持続可能な形で供給できる資源の側から社会を構想する
E-3. 生態系の循環やバランスをさまたげない
E-4. 小規模分散型システムの重視
E-5. 近代科学技術の限界の認識と自然の尊重
<b>3. 人間・労働疎外の問題の解決・緩和の観点から</b>
D-1. 非商品的生産・労働の正当な評価と拡大 ～自分でやる
D-2. 人々に制御可能な技術を
D-3. 人間的能力を引き出し、伸ばしていく技術を

## 包括的フレームワーク賛同団体(2019年12月20日現在)

特定非営利活動法人APEX(日本/代表 田中直)  
東洋大学国際共生社会研究センター(日本/代表 北脇秀敏)  
IBEKA(インドネシア/代表 トゥリ・ムンプニ)  
PRRM(フィリピン/ディレクター レベッカ・マライ)  
SIBAT(フィリピン/代表 エストレラ・カタラータ)  
ディアン・デサ財団(インドネシア/代表 アントン・スジャルウォ)



## 今後の展開

継続的に賛同団体・賛同者を募りつつ、2020年3月にバンコクで開催される「持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム(APFSD)」や、2020年7月にニューヨークの国連本部で開催される「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム(HLPF)」の機会に、SDGsを本当に実現していくための市民社会側からの提案としてアピールしていく計画です。

※包括的フレームワーク原文は、標記のURLからダウンロードいただけます。



---

### 【お問い合わせ先】

(認定)特定非営利活動法人APEX(担当:ジェンキンソン陽)  
〒110-0003 東京都台東区根岸 1-5-12 井上ビル  
Tel: 03-3875-9286 Fax: 03-3875-9306  
Email: [tokyo-office@apex-ngo.org](mailto:tokyo-office@apex-ngo.org), HP: <http://www.apex-ngo.org/>

以上